

第2期末（2023年8月10日）

基準価額	10,347円
純資産総額	47億円
騰落率	15.1%
分配金	0円

ニッセイ・ メタバースワールド (資産成長型)

追加型投信／内外／株式

運用報告書(全体版)

作成対象期間：2022年8月11日～2023年8月10日

第2期（決算日 2023年8月10日）

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「ニッセイ・メタバースワールド（資産成長型）」は、このたび第2期の決算を行いました。

当ファンドは、「ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド」受益証券への投資を通じて、日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

商品内容、運用状況などについてのお問い合わせ先

コールセンター **0120-762-506**

(9:00～17:00 土日祝日・年末年始を除く)

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

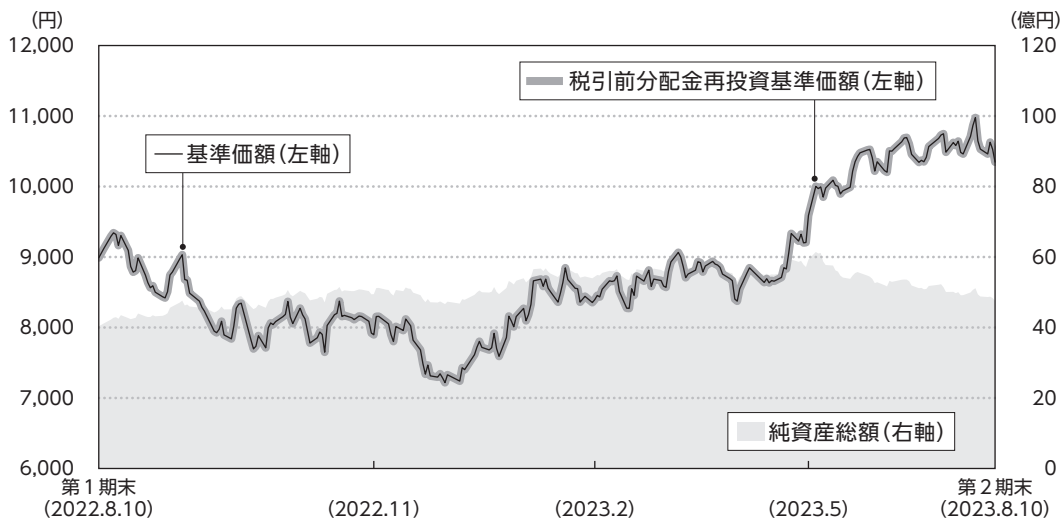
NISSAY
ASSET MANAGEMENT

東京都千代田区丸の内1-6-6

運用経過

2022年8月11日～2023年8月10日

基準価額等の推移



第2期首	8,989円	既払分配金	0円
第2期末	10,347円	騰落率(分配金再投資ベース)	15.1%

- (注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 当ファンドはベンチマークを設けていません。

■基準価額の主な変動要因

<上昇要因>

- ・年明け以降、日銀の金融緩和継続姿勢や世界的な金融引き締め継続を受けておおむね米ドル高円安が進行したこと
- ・2023年1月上旬から2月上旬にかけて、インフレ鈍化や懸念されていたほど悪化しなかった景気動向、大型テクノロジー企業による相次ぐ人員削減計画の発表による利益重視姿勢などからグロース（成長）株やテクノロジー株が上昇したこと
- ・3月中旬から4月上旬にかけて、金融危機に伴う金融引き締め緩和への期待感や金融危機への欧米金融当局による対応が迅速に行われたことで株価が上昇したこと
- ・5月中旬から7月中旬にかけて、米債務上限問題の解決や堅調な景気動向に加え、生成人工知能（A I）の開発等で必要とされる高性能画像処理半導体（G P U）需要の高まりを受けて米半導体企業が市場予想を大きく上回る業績見通しを発表したことでA I 関連銘柄が物色されたこと

<下落要因>

- ・2022年8月下旬から10月上旬にかけて、欧州でのガス供給を巡るエネルギー動向への懸念やインフレの加速、欧米中央銀行の積極的な金融引き締め姿勢、イギリスのトラス前政権が発表した大幅な減税を含む経済対策による財政悪化・インフレ助長への懸念を受けてイギリス金利が急騰したことなどから、グロース株やテクノロジー株を中心に株価が下落したこと
- ・2023年2月中旬から3月上旬にかけて、今年中の利下げまで見込む金融政策に対する楽観的な見方が後退したことや、米地銀の経営破綻など欧米において金融不安が発生し株価が下落したこと
- ・7月下旬以降、米国債の格下げに端を発した米長期金利の上昇や中国経済への懸念から株価が下落したこと

1万口当たりの費用明細

項目	第2期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	167円	1.897%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は8,802円です。
(投信会社)	(87)	(0.990)	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(77)	(0.880)	購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受託会社)	(2)	(0.027)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
売買委託手数料	3	0.037	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
(株式)	(3)	(0.037)	売買委託手数料：有価証券等の売買・取引の際に仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	0	0.005	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
(株式)	(0)	(0.005)	有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	3	0.035	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(2)	(0.027)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(1)	(0.008)	公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用
(その他)	(0)	(0.000)	・信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 ・借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息
合計	174	1.974	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

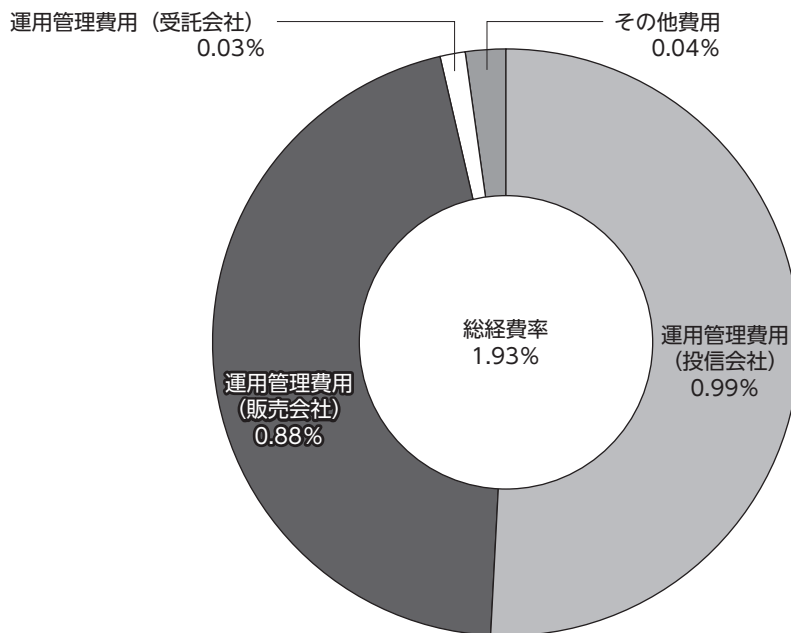
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

（参考情報）

■ 総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.93%**です。



(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

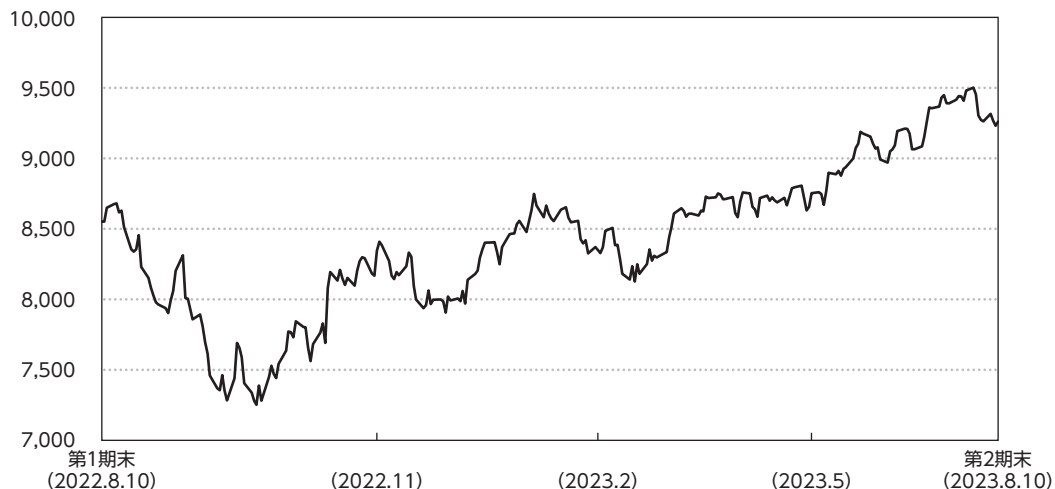
(注3) 各比率は年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

投資環境

株式市況

【MSCI ワールド・インデックス（配当込み、米ドルベース）の推移】



(注) 指数はブルームバークのデータを使用しています。

株式市場は期を通じて見ると上昇しました。

期初以降、欧州でのガス供給を巡るエネルギー動向への懸念やインフレの加速、欧米中央銀行の積極的な金融引き締め姿勢などから投資家のリスク回避姿勢が強まり株価は下落しました。2022年10月中旬以降はインフレのピークアウト観測から欧米の利上げペース減速に対する期待感や中国の「ゼロコロナ」政策の事実上の撤廃で経済活動再開への期待感が高まったことで株価は上昇しました。年明け以降はインフレ鈍化や懸念されていたほど悪化しなかった景気動向、大型テクノロジー企業による相次ぐ人員削減計画の発表による利益重視姿勢も投資家の安心感につながったことから、これまで大きく下落していたグロース株やテクノロジー株の買い戻しとみられる動きとなり株価はさらに上昇しました。その後、米地銀の経営破綻に端を発した欧米における金融不安発生で、クレディ・スイス・グループがUBSに救済合併されるなど金融危機の様相を呈する展開となったことから投資家のリスク回避姿勢が強まり株価は下落する場面がありましたが、欧米金融当局による対応が早かったことに加え、今後の金融引き締めの早期完了期待が高まるかたちでテクノロジー株をけん引役として再び上昇に転じる展開となりました。4月中旬以降は主要グローバル企業の良好な業績動向に加え、生成AIの爆発的な成長による恩恵を見込む米半導体企業の業績見通しを手掛かりとしたAI関連銘柄への物色が進み、特に米国の金融引き締め減速により、金融引き締め環境下で大きく下落していた高成長・テクノロジー株の買い戻しとみられる動きが強まりました。一方で世界的な金融引き締めの継続や中国の景気回復の鈍さなどが嫌気される場面もありましたが、良好な企業業績が下支えとなりました。

■為替市況



(注) 為替レートは対顧客電信売買相場仲値のデータを使用しています。

米ドル／円相場は期を通じて見ると米ドル高円安となりました。

期初以降、インフレの加速から欧米金融当局による金融引き締めに積極的な姿勢を受けて米ドル高円安が進行したことにより、2022年10月下旬以降に政府・日銀による過去最大の円買いドル売り介入が実施されました。その後、米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げペース減速に対する期待感やインフレのピークアウト観測を受けて米長期金利が低下したことから、米ドルは対円で下落する展開となり、さらに日銀による市場参加者の予想外のタイミングでの金融政策修正で円買いが進行しました。2023年3月中旬には欧米における金融不安発生で投資家のリスク回避姿勢がやや強まった場面があったものの、その後は欧米での金融機関に対する信用不安が和らいだことや日銀の金融緩和策が植田新総裁のもとで当面維持されるとの見通しなどを背景におおむね米ドル高円安となりました。

ポートフォリオ

■当ファンド

マザーファンド受益証券の組み入れを高位に保った運用を行いました（ただし、当ファンドから信託報酬等の費用を控除する関係などから、当ファンドの収益率はマザーファンドとは必ずしも一致しません）。

■マザーファンド

日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。

当期末における業種配分は、組入比率の高い順に情報技術（73.0%）、コミュニケーション・サービス（21.1%）、一般消費財・サービス（2.8%）としています。

当期末における国・地域別配分は、組入比率の高い順にアメリカ（84.8%）、中国（4.0%）、オランダ（2.2%）としています。

（注1）メタバースとはメタ（meta：超越）とユニバース（universe：世界）を組み合わせた造語で、通信ネットワーク上に構築された仮想空間やそのサービスのことをさします。参加者はアバターと呼ばれる自分の分身を操作して、仮想空間内でさまざまな活動を行うことができます。

（注2）業種はGICS分類（セクター）によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。

（注3）比率は対純資産総額比です。

（注4）国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

ベンチマークとの差異

当ファンドはマザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。このため、コンセプトに合った指数が存在しないことから、ベンチマークなどを設けていません。

分配金

当期の分配金は、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案した結果、見送らせていただきました。なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳（1万口当たり）】

項目	当期	
	2022年8月11日～2023年8月10日	
当期分配金（税引前）	-	
対基準価額比率	-	
当期の収益	-	
当期の収益以外	-	
翌期繰越分配対象額	1,373円	

（注1）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が当期分配金と一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■当ファンド

マザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

■マザーファンド

当マザーファンドは長期的な視点で、今後、大きな成長が期待される「メタバース」に関連する技術、コンテンツ展開力、市場アクセス等に強みを持つ企業へ投資を行っています。投資にあたっては「メタバース」関連の技術やコンテンツ等において企業として競争優位性を持っているかを分析したうえで、今後、中長期的な業績成長シナリオを達成できると見込まれる企業への投資を行っています。

「メタバース」はこれから成長する技術でもあり、多くの技術やコンテンツ等は比較的新しい中小の企業が持っていることも事実です。このため、当マザーファンドでは時価総額などで規模の小さい企業群への投資がやや多くなる傾向にあります。「今後、これらの中小規模の企業が大きく業績成長することを期待して投資を行っている」とご理解いただけますと幸いです。銘柄選別にあたっては「メタバース」をキーワードとした業績成長シナリオを想定しており、経営陣が確かな執行能力を持つと思われる企業の中から、長期的な成長力を重視して選択しています。同時に株価バリュエーション（企業の利益・資産など、本来の企業価値と比較して、相対的な株価の割高・割安を判断する指標）を考慮し、相対的にバリュエーションが高すぎる銘柄を排除するなど、慎重な銘柄選択を実施しています。今後も、「メタバース」をキーワードに長期的な成長を達成し、同時に企業価値を向上することができる銘柄への投資を進めていきたいと考えています。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

■組入ファンド

	第2期末 2023年8月10日
ニッセイ・メタバースワールド マザーファンド	100.0%

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

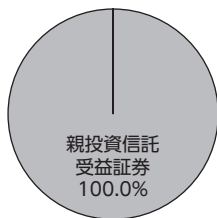
(注2) 組入全ファンドを記載しています。

■純資産等

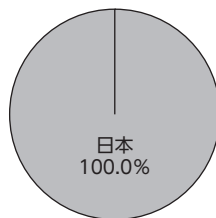
項目	第2期末 2023年8月10日
純資産総額	4,754,713,274円
受益権総口数	4,595,157,662口
1万口当たり基準価額	10,347円

(注) 当期間中における追加設定元本額は3,179,445,976円、同解約元本額は3,072,295,572円です。

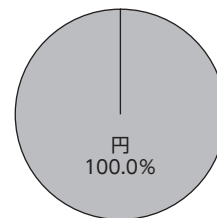
■資産別配分



■国別配分



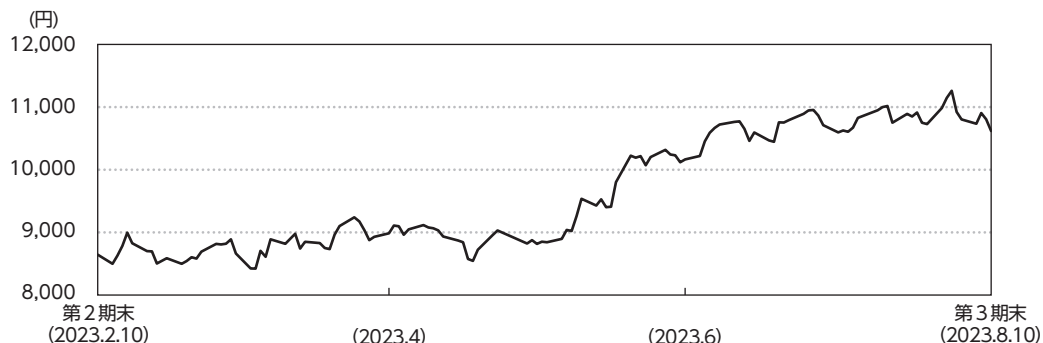
■通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分は、2023年8月10日現在のものであり、比率は純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

ニッセイ・メタバースワールドマザーファンドの概要

■基準価額の推移



■上位銘柄

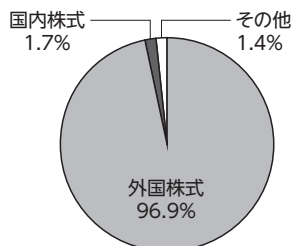
銘柄名	通貨	比率
META PLATFORMS INC-A	米ドル	6.4%
NVIDIA CORP	米ドル	6.4
BROADCOM INC	米ドル	4.7
APPLIED MATERIALS INC	米ドル	3.7
MICROSOFT CORP	米ドル	3.7
IMMERSION CORPORATION	米ドル	3.6
QUALCOMM INC	米ドル	3.2
SKYWORKS SOLUTIONS INC	米ドル	3.2
CADENCE DESIGN SYSTEMS INC	米ドル	3.2
TERADYNE INC	米ドル	3.2
組入銘柄数		43

■1万口当たりの費用明細

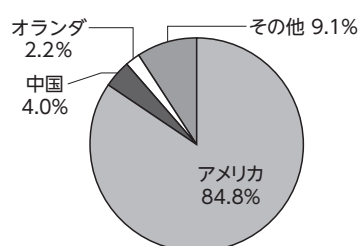
2023.2.11～2023.8.10

項目	金額
売買委託手数料 (株式)	1円 (1)
有価証券取引税 (株式)	0 (0)
その他費用 (保管費用) (その他)	1 (1) (0)
合計	2

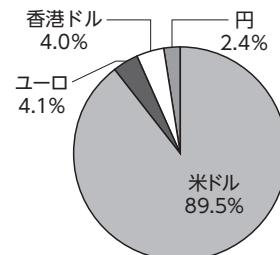
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移および1万口当たりの費用明細は、マザーファンドの直近の決算期のものであり、費用項目の金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。項目の詳細につきましては、前掲の費用項目の概要をご参照ください。

(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、マザーファンド決算日（2023年8月10日現在）のものであり、比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

(注3) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）の組入有価証券明細表をご参照ください。

設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	税引前 分配金	期中 騰落率	(ご参考) 基準価額＋ 累計分配金	株式 組入比率	純資産 総額
(設定日)	円	円	%	円	%	百万円
2022年3月31日	10,000	—	—	10,000	—	864
1期(2022年8月10日)	8,989	0	△10.1	8,989	96.6	4,034
2期(2023年8月10日)	10,347	0	15.1	10,347	98.6	4,754

(注1) 設定日の基準価額は当初設定価額を記載しています。

(注2) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

(注3) 「基準価額＋累計分配金」は、当該決算期の基準価額（分配落）に当該決算期以前の税引前分配金の累計額を加えたものです。

(注4) 株式組入比率には新株予約権証券を含みます。以下同じです。

(注5) 当ファンドはマザーファンドを組み入れるため、「株式組入比率」は実質比率を記載しています。以下同じです。

(注6) 設定日の純資産総額は当初設定元本を記載しています。

当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率	株式 組入比率
(期首)2022年8月10日	円	%	%
	8,989	—	96.6
8月末	8,564	△ 4.7	93.7
9月末	7,895	△12.2	88.5
10月末	8,273	△ 8.0	89.6
11月末	7,897	△12.1	91.2
12月末	7,329	△18.5	94.2
2023年1月末	8,096	△ 9.9	93.2
2月末	8,396	△ 6.6	92.8
3月末	8,930	△ 0.7	95.4
4月末	8,547	△ 4.9	96.9
5月末	9,994	11.2	94.7
6月末	10,538	17.2	96.4
7月末	10,710	19.1	97.4
(期末)2023年8月10日	10,347	15.1	98.6

(注) 期末基準価額は分配金（税引前）込み、騰落率は期首比です。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

2022年8月11日～2023年8月10日

	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
	千口	千円	千口	千円
ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド	3,138,494	2,762,744	3,118,271	3,083,254

(注) 単位未満は切り捨てています。

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	4,654,955千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	7,411,301千円
(c) 売買高比率(a)／(b)	0.62

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注2) 外国株式の(a)は各月末（決算日の属する月については決算日）、(b)は各月末の国内の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計です。

(注3) 単位未満は切り捨てています。

利害関係人との取引状況等

2022年8月11日～2023年8月10日

当期における利害関係人との取引はありません。

親投資信託残高

2023年8月10日現在

種類	期首(前期末)	当期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド	4,457,989	4,478,212	4,754,965

(注1) 単位未満は切り捨てています。

(注2) 当期末におけるニッセイ・メタバースワールドマザーファンド全体の口数は8,379,399千口です。

投資信託財産の構成

2023年8月10日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド	4,754,965	97.5
コール・ローン等、その他	124,148	2.5
投資信託財産総額	4,879,113	100.0

(注1) 外貨建資産は、当期末の時価を国内の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお8月10日における邦貨換算レートは、1米ドル143.96円、1香港ドル18.41円、1ユーロ157.97円です。

(注2) ニッセイ・メタバースワールドマザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（8,681,135千円）の投資信託財産総額（9,084,756千円）に対する比率は95.6%です。

(注3) 評価額の単位未満は切り捨てています。

資産、負債、元本および基準価額の状況

(2023年8月10日現在)

項目	当期末
(A) 資産	4,879,113,783円
コール・ローン等	50,341,914
ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド(評価額)	4,754,965,705
未収入金	73,806,164
(B) 負債	124,400,509
未払解約金	72,533,164
未払信託報酬	51,646,754
その他未払費用	220,591
(C) 純資産総額(A-B)	4,754,713,274
元本	4,595,157,662
次期繰越損益金	159,555,612
(D) 受益権総口数	4,595,157,662口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,347円

(注) 期首元本額 4,488,007,258円
 期中追加設定元本額 3,179,445,976円
 期中一部解約元本額 3,072,295,572円

損益の状況

当期（2022年8月11日～2023年8月10日）

項目	当期
(A) 配当等収益	△ 10,052円
受取利息	4,422
支払利息	△ 14,474
(B) 有価証券売買損益	761,173,893
売買益	1,047,775,685
売買損	△ 286,601,792
(C) 信託報酬等	△ 98,077,018
(D) 当期損益金(A+B+C)	663,086,823
(E) 前期繰越損益金	△ 33,336,551
(繰越欠損金)	(△ 33,336,551)
(F) 追加信託差損益金*	△ 470,194,660
(配当等相当額)	(474,251)
(売買損益相当額)	(△ 470,668,911)
(G) 合計(D+E+F)	159,555,612
次期繰越損益金(G)	159,555,612
追加信託差損益金	△ 470,194,660
(配当等相当額)	(1,373,410)
(売買損益相当額)	(△ 471,568,070)
分配準備積立金	629,750,272

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによる損益を含みます。

(注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含みます。

(注3) (E)前期繰越損益金とは、分配準備積立金と繰越欠損金の合計で、前期末の金額に、期中一部解約により変動した金額を調整して算出しています。

(注4) (F)追加信託差損益金*とは、追加設定をした価額と元本との差額をいい、配当等相当額と売買損益相当額に区分します。前期末の金額に、期中追加設定および一部解約により変動した金額を調整して算出しています。

分配金の計算過程

項目	当期
(a) 経費控除後の配当等収益	23,225,515円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	606,524,757円
(c) 信託約款に定める収益調整金	1,373,410円
(d) 信託約款に定める分配準備積立金	0円
(e) 分配対象額 (a + b + c + d)	631,123,682円
(f) 分配対象額 (1万口当たり)	1,373.45円
(g) 分配金	0円
(h) 分配金 (1万口当たり)	0円

お知らせ

■ 自社による当ファンドの設定解約状況

前期末 残高(元本)	当期 設定元本	当期 解約元本	当期末残高			取引の理由
			元本	評価額	比率	
百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	%	
50	-	50	-	-	-	当初設定時における取得分の処分

(注) 元本の単位未満は切り捨てています。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式	
信 託 期 間	2022年3月31日～2032年8月10日	
運 用 方 針	ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。	
主要運用対象	ニッセイ・メタバースワールド（資産成長型）	ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド受益証券
	ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド	日本を含む各国の株式
運用方法	ニッセイ・メタバースワールド（資産成長型）	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式への実質投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式への投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分 配 方 針	毎決算時に、原則として経費控除後の配当等収益および売買益等の全額を対象として、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。	

ニッセイ・メタバースワールド マザーファンド

運用報告書

第 3 期

(計算期間：2023年2月11日～2023年8月10日)

運用方針	①主に日本を含む各国の株式等を主要投資対象とし、仮想現実関連技術を含むメタバース関連ビジネスを行う企業の株式に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を図ることを目標に運用を行います。	主要運用対象	日本を含む各国の株式
	②仮想現実関連技術を含むメタバース関連ビジネスを行う企業のなかから、メタバース関連ビジネス拡大の恩恵を受け、今後、利益成長が期待できる銘柄に投資を行います。	運用方法	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式への投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-6

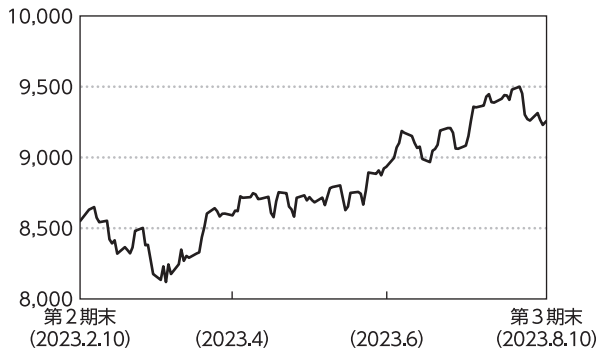
運用経過

2023年2月11日～2023年8月10日

投資環境

株式市況

【MSCI ワールド・インデックス
(配当込み、米ドルベース)の推移】

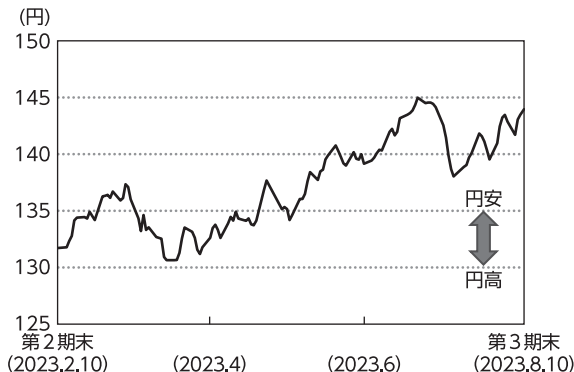


(注) 指数はブルームバーグのデータを使用しています。

株式市場は期を通じて見ると上昇しました。期初以降、米地銀の経営破綻に端を發した欧米における金融不安発生で、クレディ・スイス・グループがUBSに救済合併されるなど金融危機の様相を呈する展開となったことから投資家のリスク回避姿勢が強まり株価は下落する場面がありましたが、欧米金融当局による対応が早かったことに加え、今後の金融引き締めの早期完了期待が高まるかたちでテクノロジー株をけん引役として上昇に転じる展開となりました。4月中旬以降は主要グローバル企業の良好な業績動向に加え、生成AIの爆発的な成長による恩恵を見込む米半導体企業の業績見通しを手掛かりとしたAI関連銘柄への物色が進み、特に米国の金融引き締め減速により、金融引き締め環境下で大きく下落していた高成長・テクノロジー株の買い戻しとみられる動きが強まりました。一方で世界的な金融引き締めの継続や中国の景気回復の鈍さなどが嫌気される場面もありましたが、良好な企業業績が下支えとなりました。当期末にかけては大手格付け会社による米国債の格下げに端を發した米長期金利の上昇や中国経済への懸念が嫌気され、株価は上昇幅を縮めるかたちで当期末を迎えました。

為替市況

【米ドル／円レートの推移】

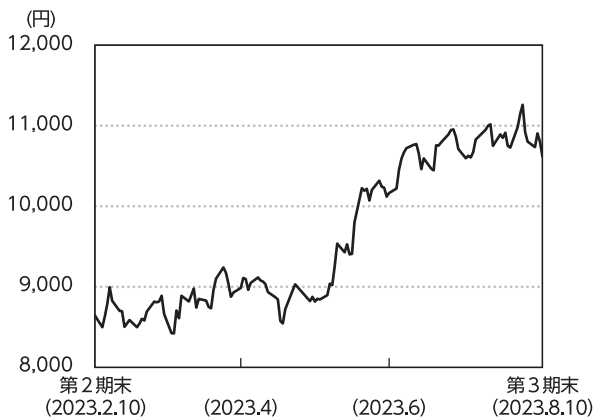


(注) 為替レートは対顧客電信売買相場仲値のデータを使用しています。

米ドル／円相場は期を通じて見ると米ドル高円安となりました。

3月中旬に欧米における金融不安発生で投資家のリスク回避姿勢がやや強まった場面があったものの、その後は欧米での金融機関に対する信用不安が和らいだことや日銀の金融緩和策が植田新総裁のもとで当面維持されるとの見通しなどを背景に米ドル高円安に転じました。7月には日銀がイールドカーブ・コントロール（長短金利操作、YCC）の運用柔軟化を決定したことなどを受けて米ドル安円高となった場面もありましたが、当期末にかけては日銀の金融緩和継続姿勢や世界の主要中央銀行における利上げの継続など、世界的な金融引き締めの継続を受けて再び米ドル高円安が進行しました。

基準価額等の推移



(注) 当マザーファンドはベンチマークを設けていません。

■ 基準価額の主な変動要因

<上昇要因>

- ・ 3月中旬から4月上旬にかけて、金融危機に伴う金融引き締め緩和への期待感や金融危機への欧米金融当局による対応が迅速に行われたことで株価が上昇したこと
- ・ 5月中旬から7月中旬にかけて、米債務上限問題の解決や堅調な景気動向に加え、生成人工知能(AI)の開発等で必要とされる高性能画像処理半導体(GPU)需要の高まりを受けて米半導体企業が市場予想を大きく上回る業績見通しを発表したことでAI関連銘柄が物色されたこと
- ・ 期を通じて日銀の金融緩和継続姿勢や世界的な金融引き締めの継続を受けておおむね米ドル高円安が進行したこと

<下落要因>

- ・ 期初から3月上旬にかけて、今年中の利下げまで見込む金融政策に対する楽観的な見方が後退したことや、米地銀の経営破綻など欧米において金融不安が発生し株価が下落したこと
- ・ 7月下旬以降、米国債の格下げに端を発した米長期金利の上昇や中国経済への懸念から株価が下落したこと

ポートフォリオ

日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。

当期末における業種配分は、組入比率の高い順に情報技術(73.0%)、コミュニケーション・サービス(21.1%)、一般消費財・サービス(2.8%)としています。

当期末における国・地域別配分は、組入比率の高い順にアメリカ(84.8%)、中国(4.0%)、オランダ(2.2%)としています。

(注1) メタバースとはメタ(meta:超越)とユニバース(universe:世界)を組み合わせた造語で、通信ネットワーク上に構築された仮想空間やそのサービスのことをさします。参加者はアバターと呼ばれる自分の分身を操作して、仮想空間内でさまざまな活動を行うことができます。

(注2) 業種はGICS分類(セクター)によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。

(注3) 比率は対純資産総額比です。

(注4) 国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

ベンチマークとの差異

当マザーファンドは、日本を含む各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。このため、コンセプトに適った指数が存在しないことから、ベンチマークなどを設けていません。

今後の運用方針

当マザーファンドは長期的な視点で、今後、大きな成長が期待される「メタバース」に関連する技術、コンテンツ展開力、市場アクセス等に強みを持つ企業へ投資を行っています。投資にあたっては「メタバース」関連の技術やコンテンツ等において企業として競争優位性を持っているかを分析したうえで、今後、中長期的な業績成長シナリオを達成できると見込まれる企業への投資を行っています。

「メタバース」はこれから成長する技術でもあり、多くの技術やコンテンツ等は比較的新しい中小の企業が持っていることも事実です。このため、当マザーファンドでは時価総額などで規模の小さい企業群への投資がやや多くなる傾向にあります。「今後、これらの中小規模の企業が大きく業績成長することを期待して投資を行っている」とご理解いただけますと幸いです。銘柄選別にあたっては「メタバース」をキーワードとした業績成長シナリオを想定しており、経営陣が確かな執行能力を持つと思われる企業の中から、長期的な成長力を重視して選択しています。同時に株価バリュエーション（企業の利益・資産など、本来の企業価値と比較して、相対的な株価の割高・割安を判断する指標）を考慮し、相対的にバリュエーションが高すぎる銘柄を排除するなど、慎重な銘柄選択を実施しています。今後も、「メタバース」をキーワードに長期的な成長を達成し、同時に企業価値を向上することができる銘柄への投資を進めていきたいと考えています。

設定以来の運用実績

決算期	基準価額	期中騰落率		株式組入比率	純資産総額
(設定日)	円		%	%	百万円
2022年3月31日	10,000		—	—	1,115
1期(2022年8月10日)	9,050	△	9.5	96.6	4,925
2期(2023年2月10日)	8,645	△	4.5	93.5	8,259
3期(2023年8月10日)	10,618		22.8	98.6	8,897

(注1) 設定日の基準価額は当初設定価額を記載しています。

(注2) 株式組入比率には新株予約権証券を含みます。以下同じです。

(注3) 設定日の純資産総額は当初設定元本を記載しています。

当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率		株式組入比率
	円		%	%
(期首)2023年2月10日	8,645		—	93.5
2月末	8,543	△	1.2	92.8
3月末	9,101		5.3	95.4
4月末	8,723		0.9	96.9
5月末	10,217		18.2	94.7
6月末	10,791		24.8	96.4
7月末	10,985		27.1	97.3
(期末)2023年8月10日	10,618		22.8	98.6

(注) 騰落率は期首比です。

1万口当たりの費用明細

2023年2月11日～2023年8月10日

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
売買委託手数料 (株式)	1円 (1)	0.010% (0.010)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買・取引の際に仲介人に支払う手数料
有価証券取引税 (株式)	0 (0)	0.001 (0.001)	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用 (保管費用)	1 (1)	0.007 (0.007)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(0)	(0.000)	・信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 ・借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息
合計	2	0.017	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（9,655円）で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

売買および取引の状況

2023年2月11日～2023年8月10日

株式

		買付		売付	
		株数	金額	株数	金額
国内	上場	千株	千円	千株	千円
		－	－	1	8,094
外国	アメリカ	百株	千米ドル	百株	千米ドル
		579	2,666	1,126	7,505
	香港	－	千香港ドル	445	千香港ドル
		－	－		1,945
	ユーロ	－	千ユーロ		千ユーロ
オランダ	－	－	2	152	
フランス	－	－	34	138	

(注1) 金額は受渡代金です。

(注2) 地域は発行通貨によって区分しています。以下同じです。

(注3) 株数および金額の単位未満は切り捨てています。ただし、株数および金額が単位未満の場合は、小数で記載しています。

主要な売買銘柄

2023年2月11日～2023年8月10日

株式

銘柄	買付			売付			
	株数	金額	平均単価	銘柄	株数	金額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
IMMERSION CORPORATION	46	51,470	1,114	COINBASE GLOBAL INC -CLASS A	23	185,321	7,772
APPLIED MATERIALS INC	3	51,259	16,324	NVIDIA CORP	1	61,096	57,638
NVIDIA CORP	1	50,862	36,460	META PLATFORMS INC-A	1	57,500	38,720
BROADCOM INC	0.602	50,842	84,455	BROADCOM INC	0.385	45,519	118,231
MICROSOFT CORP	1	50,701	37,780	MICROSOFT CORP	0.801	38,035	47,484
META PLATFORMS INC-A	1	50,507	27,554	IMMERSION CORPORATION	36	37,263	1,007
TERADYNE INC	3	50,437	14,394	APPLIED MATERIALS INC	1	35,345	19,560
－	－	－	－	CADENCE DESIGN SYSTEMS INC	0.999	32,989	33,022
				QUALCOMM INC	1	32,123	16,507
				SKYWORKS SOLUTIONS INC	2	31,568	15,011

(注1) 金額は受渡代金で、外国株式は各月末（決算日の属する月については決算日）における国内の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計です。

(注2) 株数および金額の単位未満は切り捨てています。ただし、株数および金額が単位未満の場合は、小数で記載しています。

組入有価証券明細表

2023年8月10日現在

(1) 国内株式
上場株式

銘柄	期首(前期末)	当期末	
	株数	株数	評価額
	千株	千株	千円
電気機器(43.6%)			
ソニーグループ	5	5	66,594
その他製品(56.4%)			
任天堂	14	13	86,263
合計	株数・金額	20	19
	銘柄数<比率>	2	2
			<1.7%>

(注1) 銘柄欄の()内は、当期末における国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注2) 合計欄の< >内は、当期末の純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 株数および評価額の単位未満は切り捨てています。ただし、株数および評価額が単位未満の場合は、小数で記載していません。以下同じです。

(2) 外国株式

銘柄	期首(前期末)	当期末			業種等
	株数	株数	評価額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
	百株	百株	千米ドル	千円	
(アメリカ)					
ADOBE INC	37	34	1,751	252,216	ソフトウェア・サービス
ADVANCED MICRO DEVICES INC	169	152	1,685	242,636	半導体・半導体製造装置
AKAMAI TECHNOLOGIES INC	126	113	1,173	169,006	ソフトウェア・サービス
ALPHABET INC-CL A	137	123	1,600	230,467	メディア・娯楽
AMAZON.COM INC	104	93	1,295	186,462	一般消費財・サービス流通・小売り
APPLE INC	108	97	1,741	250,724	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
APPLIED MATERIALS INC	145	158	2,304	331,806	半導体・半導体製造装置
ARISTA NETWORKS INC	111	99	1,774	255,420	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
AUTODESK INC	92	82	1,695	244,054	ソフトウェア・サービス
BENTLEY SYSTEMS INC-CLASS B	351	315	1,510	217,435	ソフトウェア・サービス
BROADCOM INC	31	33	2,883	415,176	半導体・半導体製造装置
CADENCE DESIGN SYSTEMS INC	97	87	1,976	284,480	ソフトウェア・サービス
CIENA CORP	249	223	920	132,489	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
COINBASE GLOBAL INC -CLASS A	238	—	—	—	金融サービス
ELECTRONIC ARTS INC	122	109	1,339	192,804	メディア・娯楽
IMMERSSION CORPORATION	3,159	3,250	2,213	318,713	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
MARVELL TECHNOLOGY INC	214	192	1,153	165,995	半導体・半導体製造装置
META PLATFORMS INC-A	126	130	3,981	573,215	メディア・娯楽
MICROSOFT CORP	64	70	2,268	326,526	ソフトウェア・サービス
NVIDIA CORP	89	93	3,960	570,092	半導体・半導体製造装置

ニッセイ・メタバースワールドマザーファンド

銘柄	期首(前期末)	当期末				業種等
		株数	株数	評価額		
				外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)		百株	百株	千米ドル	千円	
QUALCOMM INC		190	171	1,993	286,979	半導体・半導体製造装置
ROBLOX CORP -CLASS A		534	480	1,414	203,630	メディア・娯楽
SAMSUNG ELECTRONICS-GDR 144A		7	7	922	132,736	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
SEA LTD-ADR		117	105	593	85,465	メディア・娯楽
SKYWORX SOLUTIONS INC		205	184	1,980	285,107	半導体・半導体製造装置
SNAP INC - A		452	406	424	61,048	メディア・娯楽
SYNOPTIS INC		47	43	1,844	265,538	ソフトウェア・サービス
TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR		116	105	986	142,085	半導体・半導体製造装置
TAKE-TWO INTERACTIVE SOFTWARE		100	90	1,259	181,354	メディア・娯楽
TERADYNE INC		168	183	1,950	280,748	半導体・半導体製造装置
TEXAS INSTRUMENTS INC		107	96	1,617	232,879	半導体・半導体製造装置
UNITY SOFTWARE INC		247	222	835	120,254	ソフトウェア・サービス
WALT DISNEY CO		111	100	878	126,504	メディア・娯楽
ZOOM VIDEO COMMUNICATIONS-A		162	145	969	139,502	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	8,353 34	7,806 33	54,901 -	7,903,558 <88.8%>	
(香港)				千香港ドル		
ALIBABA GROUP HOLDING LTD		405	362	3,406	62,712	一般消費財・サービス流通・小売り
BAIDU INC-CLASS A		289	258	3,644	67,101	メディア・娯楽
MEITUAN-B		11	10	145	2,671	消費者サービス
NETEASE INC		341	306	5,162	95,036	メディア・娯楽
TENCENT HOLDINGS LTD		113	101	3,405	62,699	メディア・娯楽
XIAOMI CORP-CLASS B		3,106	2,782	3,377	62,176	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	4,265 6	3,819 6	19,141 -	352,398 <4.0%>	
(ユーロ/オランダ)				千ユーロ		
ASML HOLDING NV		22	19	1,218	192,563	半導体・半導体製造装置
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	22 1	19 1	1,218 -	192,563 <2.2%>	
(ユーロ/フランス)						
DASSAULT SYSTEMES SA		330	296	1,110	175,405	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	330 1	296 1	1,110 -	175,405 <2.0%>	
ユーロ計	株数・金額 銘柄数<比率>	352 2	315 2	2,329 -	367,968 <4.1%>	
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	12,971 42	11,942 41	- -	8,623,926 <96.9%>	

(注1) 邦貨換算金額は、当期末の時価を国内の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 邦貨換算金額の< >内は、当期末の純資産総額に対する株式評価額の比率です。

(注3) 業種はGICS分類（産業グループ）によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS & PおよびMSCI Inc.に帰属します。

投資信託財産の構成

2023年8月10日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
株式	8,776,784	96.6
コール・ローン等、その他	307,972	3.4
投資信託財産総額	9,084,756	100.0

(注1) 外貨建資産は、当期末の時価を国内の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお8月10日における邦貨換算レートは、1米ドル143.96円、1香港ドル18.41円、1ユーロ157.97円です。

(注2) 外貨建純資産 (8,681,135千円) の投資信託財産総額 (9,084,756千円) に対する比率は95.6%です。

(注3) 評価額の単位未満は切り捨てています。

資産、負債、元本および基準価額の状況

(2023年8月10日現在)

項目	当期末
(A)資産	9,084,756,768円
コール・ローン等	306,032,121
株式(評価額)	8,776,784,436
未収配当金	1,940,211
(B)負債	187,297,862
未払解約金	187,296,610
その他未払費用	1,252
(C)純資産総額(A-B)	8,897,458,906
元本	8,379,399,180
次期繰越損益金	518,059,726
(D)受益権総口数	8,379,399,180口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,618円

(注1) 期首元本額 9,553,853,681円
期中追加設定元本額 3,191,169,092円
期中一部解約元本額 4,365,623,593円

(注2) 当マザーファンドの当期末元本額におけるベビーファンド別内訳は、次の通りです。

ニッセイ・メタバースワールド (資産成長型) 4,478,212,192円
ニッセイ・メタバースワールド (予想分配金提示型) 3,901,186,988円

損益の状況

当期 (2023年2月11日~2023年8月10日)

項目	当期
(A)配当等収益	29,404,013円
受取配当金	29,206,651
受取利息	299,221
支払利息	△ 101,859
(B)有価証券売買損益	1,842,750,424
売買益	2,220,920,625
売買損	△ 378,170,201
(C)信託報酬等	△ 616,556
(D)当期損益金(A+B+C)	1,871,537,881
(E)前期繰越損益金	△ 1,294,602,436
(F)追加信託差損益金	△ 26,082,578
(G)解約差損益金	△ 32,793,141
(H)合計(D+E+F+G)	518,059,726
次期繰越損益金(H)	518,059,726

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによる損益を含みます。

(注2) (F)追加信託差損益金とは、追加設定をした価額と元本との差額をいい、元本を上回る場合は利益として、下回る場合は損失として処理されます。

(注3) (G)解約差損益金とは、一部解約をした価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。